

発 言 通 告 書

発言者氏名	大村洋子
発言の会議	令和元年 8月30日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

【件名及び発言の要旨】

1 上地市長の政治姿勢について

(1) 折り返し地点を迎え2年間の評価について

ア 自己評価はいかがか。また、外部評価を受けるお考えはあるか。あわせて伺う。

(2) 広報広聴への姿勢について

ア 市長は市民や団体と直接会って懇談したりはしないと聞いているが、ルールがあるのか。

イ 市政全般について広く市民と語らう機会を設けるなど計画されてはいかがか。

(3) 答弁の姿勢について

ア 住民基本台帳法を引用されるのであれば、正確性を期すことが大前提であり、その上で御自分の解釈、御意見を展開するというのが道理だ。御認識を伺う。

イ 「米軍罪悪論」「自衛隊罪悪論」のような善か悪かの二者択一で議論を矮小化し、決めつけては建設的な質疑は望めない。また、「どこかの政党」とほのめかす言い方はさもしい答弁と

言わざるを得ない。これらのフレーズはどれも一問一答での答弁だが、一問目の答弁と何か違いがあるのか。一問一答方式における議員質問を受け、市長の中に重い軽いという差異があるのか。あわせて伺う。

ウ 前市長の1回目の問責決議は当時の上地議員への不誠実な答弁が発端であったことから、上地市長は誰よりも答弁に心を砕かれているのではないかと思っている。議員質問に対する答弁をどのようにお考えか。御認識を伺う。

(4) 地域主権主義と外交・防衛への姿勢について

ア 危険なオスプレイの横須賀配備は絶対に認められない。市長の見解を示されたい。

イ オスプレイの展示中止を申し入れた際に市長が不在のため渉外部長に渡したが、要望項目についてその場で全て渉外部長が話し「これが回答となります」とおっしゃった。行政組織としての決裁権はどうなっているのか。事案が外交・防衛に関連したことは市長の決裁をとるまでもないという暗黙のルールがあるのか。どのように理解したらよいのか御説明と御認識をあわせて伺う。

ウ 市長は今夏の訪米視察でペンタゴンやワシントン海軍工廠を訪問されている。この訪問の発案者はどこか。目的は何か。あわせて伺う。

エ 記者会見で市長は「横須賀の置かれている立場は大変重要な立場であると再確認した」、また、「政治運営をしていく上で私の中の腹が据わった」ともおっしゃっている。これらの発言はどのような意味か。御説明を伺う。

オ オスプレイ同様、頻繁に墜落事故を起こしているF35Bステルス戦闘機が「いずれ」に搭載されるのであれば、首長として見過ごすことは許されない。御認識を伺う。

カ 首長の言動が日米政府や米軍に与える影響についてどのようにお考えか。御認識を伺う。

キ 外交・防衛に関しては国の専管事項なので、地域主権主義はなじまないとお考えか。御認識を伺う。

(5) スピード感の重視と合意形成について

ア 市政全般にわたるプロジェクトにかかわる首長はスピード感の重視を第一義とするのではなく、多くの人々が「我が事」としてかかわれるように、しっかりと丁寧に意見を出してもらい、納得を得られるよう調整に心を砕いていくこと、その視点で職員に指示を出すこと、これらが必要ではないか。施策、事業を進めていくにあたり「スピード感と合意形成」について御所見を伺う。

(6) 公約実現と計画行政について

ア 首長は個々の施策だけに注力しているわけにはいかず、市政全体を考えなくてはならない立場にあると思う。市長のやりたい施策・事業と、地方自治体として住民の福祉の増進を担保することが滞りなく行われていくための調整がいかなるときにも大切なのではないかと考える。自治体の行政は脈々たる継続性のもとに今があり、モザイクのように異彩を放って完結するということはあり得ない。市長の言動の中に計画行政にじれていく感が見受けられる。公約実現と計画行政について市長のお考えを伺う。

(7) 自治体の本務と優先施策について

ア 音楽・スポーツ・エンターテイメント都市構想に対して「一体これで、私たちの暮らしはよくなるのだろうか？」という市民の声を聞いている。市長はこの先、どのように市政のかじ取りをしていくお考えか。御認識を伺う。